

2014年4月 メディカルはこだて 第50号 掲載

ドクターコローズアップ『ベトナムのハソイ医科大学から感謝状』歯科口腔外科辻 司 科長



ハノイ医科大学からの感謝状を手にする計司医師

つじ つかさ  
昭和63年城西歯科大学歯学部卒業。  
同年札幌医科大学医学部口腔外科学講座入局。  
平成4年函館中央病院歯科口腔外勤務、歯科口腔外科長。  
専門博士は口腔外科全般と口腔粘膜疾患。  
専門分野は日本口腔外科学会専門医・指導医、日本口腔診断学会認定医、指導医・評議員、日本口唇口蓋協会、組織委員、がん治療暫定教育医(歯科口腔外科)。

患者や家族から感謝される援助活動は医療の原点であり、自分への大きな励みにもなると辻医師は話す。「今後も海外での口唇口蓋裂手術の支援活動を継続していくります」。

平成4年に発足したNPO法人の日本口唇口蓋裂協会は、先天的な口の病気の子供達の健やかな成長を願って、医師や患者、医療関係者、企業、その他一般人によつて活動している日本最大の口唇口蓋裂に関する非営利のボランティア協会で、平成15年には国連認定法人（ロスター）の資格を得ている。「日本の31大学の医学部・歯学部を中心とした医師・歯科医師による診療活動」による「口腔内のあらゆる疾患に対応」という理念のもと、昭和63年城西歯科大

函館中央病院（函館市本町、橋本友幸院長）は、昨年11月に日本とベトナムの国交樹立40周年記念事業の一貫として行われた医学歯学交流ワーキングショップにおいてハノイ医科大学からこれまでのべトナムにおける医療援助活動に対し感謝状が贈られた。海外医療援助活動の取り組みについて、同病院歯科口腔外科学院科長の辻司医師に話を聞いた。

医学部口腔外科学講座に入成4年から同病院歯科口腔全般と口腔粘膜疾患とともに開設された歯科は現在、歯医師のほか、が専門医、小児および障害者は専門医、専門医など、歯科医院で診療を行つて、同病院歯科口腔外科は、

門医とのチーム医療、歯科領域における病診連携、地域連携を積極的に推し進めてきた。また、難しい親知らずの抜歯や抗血栓薬、ビンフォンス・フォネート製剤投与患者の抜歯など一般歯科診療所では対応が難しかった抜歯や高血圧・糖尿病などのリスクのある患者の治療、入院患者への口腔ケアの積極的な介入による入院期間の短縮に貢献するなど、急性期病院の歯科口腔外科として高い評価を受けてきた。

2週間の日程で40例の手術  
同病院歯科口腔外科では19  
2年から金歯や銀歯の金属リサ  
クルによるボランティア活動に参  
加している。これは日本口唇・顎  
裂協会が行っている援助活動で、  
辻医師は「リサイクルによって得  
られた純益金を、海外ではベトナ  
ムやミャンマーなど発展途上国  
の無料手術や医薬品の援助・医  
療機材の贈与、国内でよいかじめな

ベトナムのハノイ医科大学から感謝状  
インドネシアでの口唇口蓋裂の無償手術に毎年参加  
辻 司氏 函館中央病院歯科口腔外科科長

辻  
司氏  
函館中央病院歯科口腔外科科長

A black and white line drawing showing a dental procedure. A male dentist wearing a cap and mask is standing and holding a dental mirror and probe. He is examining the teeth of a female patient who is reclining in a dental chair. The dental unit includes a sink and a light fixture above the patient's head.

■■ドクタークローズアップ■■

DOCTOR  
*closeup*